

# 新聞記事

# 官民一体の活動加速

## 一関、奥州 気仙沼 環境整備を議論

## 盛岡 盛岡商議所 提言へ会議設置

本県の北上山地（北上高地）が建設候補地の超大型加速器・国際リニアコライダー（ILC）計画で、建設の実現に向けた官民の取り組みが盛んになっている。25日は奥州市で「ILC推進3市連絡会議」が本格的な議論を開始し、盛岡商工会議所（谷村邦久会頭）は課題研究などを行う「ILC実現検討会議」の設置を決めた。本県などの行政と民間が政策提言に知恵を絞り、政府に東北誘致を働き掛ける。



一関、奥州、気仙沼の3市による連絡会議は奥州市役所で開かれ、担当職員9人が出席。地元在住の外国人12人でつくる国際ILCサポート委員会のヒル・ルイス委員長も同市水沢区Ⅱらが参加して意見交換した。

米国出身のルイス委員長は、外国人研究者を迎える地域課題として「駅の多言語表示や日本の生活習慣に関する情報発信が必要。大きいサイズを扱う衣料店も欲しい」と指摘。

米国出身のルイス委員長は、外国人研究者へのシオラマ設置、気仙沼市は講演会や国道の啓発看板設置、奥州市は来年度に中学校での出前授業に力を入れることなどを示した。

連絡会議は建設候補地に当たる3市の連携を強めようと11月に設置。一関市が事務局を務め、月1回開く。

奥州市ILC推進室の及川健室長は「ILCの名が付く政府予算案（2014年度調査）の専門家委員は県や盛岡市、本県の大学関係者

ら専門家が担う。検討項目は▽民間活力を利用したまちづくりの開発手法▽外国人が安心して暮らせる生活基盤整備▽意欲ある企業の参入に向けた仕組みづくりなど。民間の発想を生かし、具体的な検討を迅速に進める。

谷村会頭が会長を務める県ILC推進協議会など既存団体とも連携し、必要に応じて行政に提言する方針だ。

谷村会頭は「県のリーダーである盛岡の商工会議所が核となり、課題を検討していく。経済界をまとめる先導的な役割を果たしたい」と意欲を示す。

3市は予定する誘致事業について情報交換し、

盛岡商  
議所

# 足元会議 足元検討実現 ILC

## まちづくり基本構想など

### 谷村会頭「核となる活動したい」

第1回盛岡商工会議所記者会見が25日、盛岡市清水町の同会議所で開かれた。谷村邦久会頭、玉山哲副会頭、廣田淳専務が出席。同日、同会議所内に発足したILC(国際リニアコライダー)実現検討会議について発表した。



第1回盛岡商工会議所記者会見に臨む谷村邦久会頭(左)、玉山哲副会頭

同会議は、ILC建設、関係自治体などと設実現に向けた課題を連携を図り、その活動踏まえ、県盛岡市として必要な各種調査・研究を行いながら、県ILC推進協議会、東北ILC推進協議会

力を利用したまちづくり開発手法▽まちづくり基本構想▽家族が安心して暮らせる生活基盤の整備▽意欲ある企業の参入への仕組みづくりと関連産業の集積▽地元大学との連携▽国際化▽広報活動など。

携して進めたい。民間の発想を生かし、スピード感を持ち、進めたい。2016年開催の岩手国体とILCは、岩手の復興のシンボル」と意気込みを述べた。

谷村会頭は議長を担当。メンバーは、4副会頭、専務、8同会議所委員会委員長ら。専門委員には、県、盛岡市、県工業技術センター、地元大学関係者。会見で谷村会頭は「当会議所は、県内九つの会議所のリーダー役を担っており、ILC実現に向け、核となる活動をしたい。関連団体とは、それぞれの役割を認識し合い、連

た。玉山副会頭は「政府は、ILC調査検討費5千万円の予算措置を決めた。当会議所などの要望活動が実り出した。多くの国の外国人が暮らせるような都市デザインやインターナショナルスクールなどの構想を率先して打ち出し、新たな準備を進める時期」などと話した。

# 建設実現へ課題探る

## 盛岡商議所検討会議設置

### ILCを 東北へ

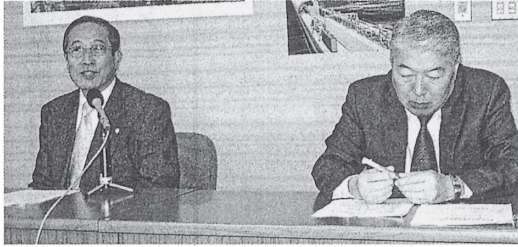
岩手県南と宮城県北にまたがる北上山地が候補地となっている超大型加速器「国際リニアコライダー」(ILC)の建設実現に向け、盛岡商工会議所は25日、会議所内にILC実現検討会議を設置した。

岩手県内の経済界をリードする立場から、民間の発想とスピードで課題を検討し、実現に向け積極的に関わっていくのが狙い。

会議は、谷村邦久会頭を議長に、4人の副会頭から幹部を委員に構成。県や盛岡市、岩手大、岩手県立大、岩手医科大など

にもオブザーバーの専門委員として参加してもらおう。民間活力を生かしたまちづくり、企業参入の仕組みづくりと関連産業の集積、地元大学との連携などについて探る。

県も9月、庁内にワーキンググループを設けて課題の洗い出しなどをしており、連携しながら民間の立場で検討する。谷村会頭は「(国が誘致に手を挙げるのが)決まっただけでは間に合わない。県経済界のけん引役として盛岡が核になり、意欲的に準備に携わりたい」と話した。



ILC実現検討会議設置を発表する谷村会頭(左)



建設実現に向けて協議するメンバー

# 9月までに提言まとめ

## 盛岡商議所 検討会議が初会合

本県の北上山地（北上高地）が建設候補地の超大型加速器・国際  
リニアコライダー（ILC）計画に関し、誘致実現への課題研究などを行う盛岡商工会議所の「ILC実現検討会議」（議長・谷村邦久会頭）は27日、盛岡市清水町の同会議所で初会合を開いた。8委員や県、盛岡市、大学関係者の専門委員

ら約30人が出席。各委員が、まちづくりの基本構想や外国人研究者の受け入れに向けた環境整備などを具体的に検討することを確認した。

各委員長は「最大限協力し、計画を一步でも前進させたい」「公・民・学が役割分担し、それぞれが機能するように取り組む必要がある」と意欲を示した。

谷村会頭は「委員会でいろいろな意見を吸い上げ、内容を重ねることです。具体的なイメージを実現させていきたい」と先を見据える。

# 9月までに意見集約

## 盛岡商議所 検討会議が初会合

### ILCを 東北へ

岩手県南部と宮城県北部にまたがる北上山地が候補地となっている超大型加速器「国際リニアコ

ライダー（ILC）の建設実現に向け、盛岡商工会議所内のILC実現検討会議（議長・谷村邦久会頭）の初会合が27日、盛岡市で開かれた。谷村議長は「世界、日本に岩手の魅力を発信する大きな機会。岩手、盛岡の将来のために積極的な活動にしよう」とあいさつ。民間活力を生かしたまちづくり、研究者と家族が生活する上での課題と改善策、企業参入の仕組みづくりなどについて、9月までに意見をまとめる。関係機関に提案

することを決めた。会議は、同会議所の会頭、副会頭、専務理事、会議所内の8委員会委員長ら15人で構成。県、盛岡市、岩手大、岩手県立大、岩手医科大の担当者らもオブザーバーとして参加する。県内の経済界をリードする立場から必要な各種調査、研究を行い、県や東北ILC推進協議会とも連携して建設実現を目指す。

## 具体的活動へ始動

### 盛岡 ILC 実現検討会議

商議

第一回 ILC (国際  
リニアコライダー) 実  
現検討会議 (議長・谷  
村邦久盛岡商工会議所  
会頭) が27日、盛岡市  
清水町の同会議所で開  
かれた。谷村議長、川  
村宗生同会議所観光国  
際委員長、柴田義孝県  
大副学長ら同会議メン  
バーら25人が出席し、

同会議での今後の取り  
組みを協議。同会議所  
9委員会が個別のテー  
マを掲げ、ILC 推進  
関係機関などと連携を  
図り、9月末までに提

案としてまとめるこ  
とを決め、具体的な活動  
を開始した。  
個別テーマとして  
「ILC建設を中心と  
した国家戦略特区構想  
の可能性」(中小企業  
振興委員会)、「外国語  
通訳アイテムなど「ミ  
ュニケーション」への  
(産業育成特別委員

会)、「環境にやさしい  
街づくり」(環境問題  
特別委員会)、「ILC  
のブランド化に関する  
普及・啓蒙」(盛岡ブ  
ランド創出特別委員  
会)、「意欲ある企業の  
参入への仕組みづく  
り、関連企業集積」  
と述べた。

「まちづくり基本構  
想と特定目的会社など民  
間活力を利用した開発  
手法」(まちづくり委  
員会)、「研究者とその  
家族の口座開設など安  
心して暮らせる生活基  
盤やサービスの支援」  
(税制問題特別委員  
会)、「環境にやさしい  
街づくり」(環境問題  
特別委員会)、「ILC  
のブランド化に関する  
普及・啓蒙」(盛岡ブ  
ランド創出特別委員  
会)、「意欲ある企業の  
参入への仕組みづく  
り、関連企業集積」  
と述べた。

同会議は昨年12月、  
ILC建設実現に向け  
た課題を踏まえ、県都  
盛岡市としての必要な  
各種調査・研究を行い  
ながら、県 ILC 推進  
協議会、東北 ILC 推  
進協議会、関係自治体  
などと連携を図り、そ  
の活動を支援する目的  
で発足した。

谷村議長は「実現に  
向けた活動内容が決ま  
ったが、まったく新た  
なことへの挑戦。民間  
組織として国家プロジ  
ェクトの ILC 実現に  
向け、力を入れたい」  
と話した。

会)、「各委員会のとり  
まとめ」(総務政策委  
員会)など9委員会1  
200人で取り組む。  
川村委員長は「多く  
の国から来県したり住  
む人を、十分に迎え入  
れる態勢などを考えな  
がら、まとめた」と  
話していた。

# 啓発事業 相次ぎ開催



7日は、盛岡商工会議所が盛岡市内で会員ら向けのILC研修会を開き、東北大、岩手大客員教授の吉岡正和氏がILC計画の概要などを説明する。同協議会は県民向け啓発事業として、15日に同市松尾町の盛岡劇場でシンポジウムを開催。企業の人材登用を支援するN

## 県推進協など関係団体

国際リニアコライダー(ILC)の県民や企業向けに3回予定。18、19日本県建設実現を目指し、県ILC推進協議会など関係団体は、加速器関連産業への参入可能性を探究つと、高エネルギー加速器研究機構(茨城県つくば市、KEK)などを視察する。

## 月内に講演会3回

## KEK(茨城)へ視察も

PO法人J-Win(東京千代田区)の内永ゆゑ氏が、研究員と京都市長を講師に、I器を使った医療施設や、LCによる国際化の可能KEKへ製品を供給する性について考える。東北企業も訪問できるよう調大大学院理学研究科の佐野正行教授もILC計画について説明する。同協議会事務局の広田東北経済連合会も13日、理事は「波及効果などに同市内でフォーラムをさまざまに切り口で理解開き、元県知事で野村総を元研究顧問の増田寛也氏が、ILCにも触れて東北や日本の成長ビジョンについて講演する。茨城県の視察には、加速器関連産業への参入に500人以上が参加予定。K・5880)へ。